

1 平成16年の漁獲状況

表1 漁獲量及び漁獲金額の推移(水産漁港課調べ)

年	漁獲量(トン)			漁獲金額(千円)			単価(円/kg)		
	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計	沖合	沿岸	合計
平成3年	55.5	16.6	72.1	109,232	53,565	162,797	1,968	3,227	2,258
平成4年	37.3	-	37.3	平成4年9月～7年9月(禁漁期間)					
平成7年	53.8	88.7	142.5	196,724	239,821	436,545	3,657	2,704	3,063
平成8年	86.1	157.2	243.3	224,559	280,367	504,926	2,608	1,784	2,075
平成9年	161.1	290.8	451.9	269,968	500,542	770,510	1,676	1,721	1,705
平成10年	158.4	436.8	595.2	211,974	411,386	623,360	1,338	942	1,047
平成11年	157.6	579.1	736.7	192,519	594,968	787,487	1,222	1,027	1,069
平成12年	157.2	901.8	1,059.0	155,087	565,756	720,843	987	627	681
平成13年	451.5	986.3	1,437.8	422,572	638,461	1,061,033	936	647	738
平成14年	471.8	1,570.1	2,041.9	307,990	530,312	838,302	653	338	411
平成15年	956.1	2,058.6	3,014.7	480,713	608,158	1,088,871	503	295	361
平成16年	779.9	2,348.7	3,128.6	331,755	678,022	1,009,777	425	289	323
H16/H3	14.05	141.49	43.39	3.04	12.66	6.20	0.22	0.09	0.14
H16/H15	0.82	1.14	1.04	0.69	1.11	0.93	0.85	0.98	0.89

沖合は暦年、沿岸は漁期データ。

表2 漁獲可能量と漁獲実績の推移(水産漁港課調べ)

単位:トン

年	沖合			沿岸			合計		
	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)	配分枠	漁獲量	実績(%)
平成7年	85	53.3	62.8	85	88.7	104.4	170	142.0	83.6
平成8年	110	81.3	73.9	110	157.2	142.9	220	238.5	108.4
平成9年	180	153.3	85.1	180	290.8	161.6	360	444.1	123.3
平成10年	300	178.5	59.5	300	436.8	145.6	600	615.3	102.6
平成11年	400	143.0	35.7	600	579.1	96.5	1,000	722.1	72.2
平成12年	400	260.3	65.1	600	901.8	150.3	1,000	1,162.1	116.2
平成13年	520	547.8	105.3	780	986.3	126.4	1,300	1,534.1	118.0
平成14年	680	384.5	56.5	1,020	1,570.1	153.9	1,700	1,954.6	115.0
平成15年	960	903.9	94.2	1,440	2,058.6	143.0	2,400	2,915.4	121.5
平成16年	1,000	732.8	73.3	1,500	2,348.7	156.6	2,500	3,081.5	123.3

平成10年以降は管理漁期(9～翌6月)データ。今漁期の沖合漁獲量は12月末時点。

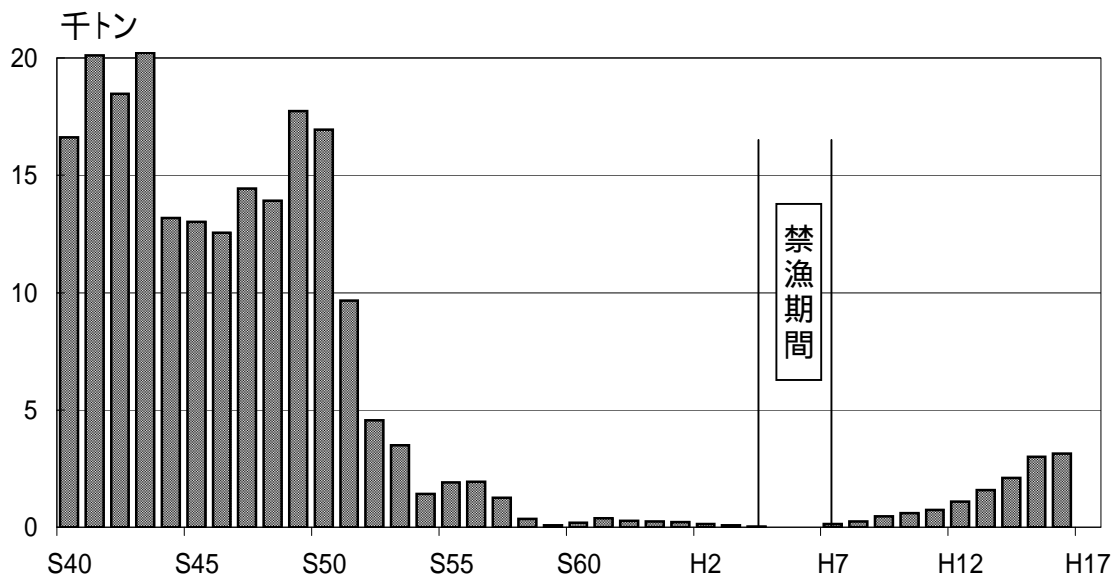


図1 秋田県のハタハタ漁獲量の推移

- ・平成16年の漁獲量は3,134トン(暦年分、水産漁港課調べ)。
- ・平成7年の禁漁解除以後の最高値を更新したものの、前年比では105%と最も低い伸び率となった。

漁獲量(トン)

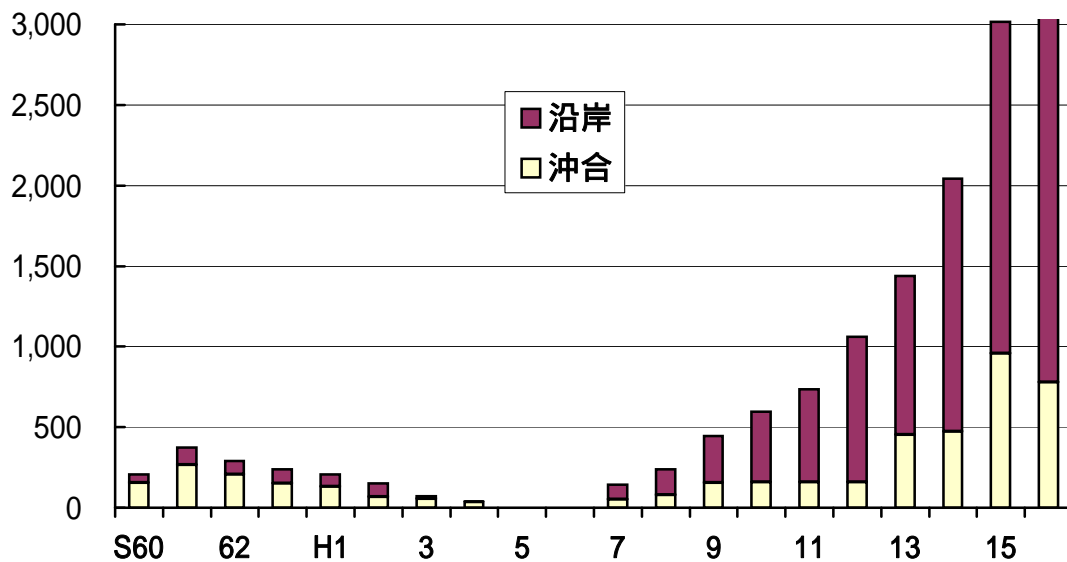


図2 沖合・沿岸別漁獲量の推移

- ・総漁獲量は前年並みにとどまり、沿岸で前年比114%と増加、沖合で82%と減少した。
- ・沖合の漁況は9月以降低水準で推移し、11月中旬以降、急激に増加したものの、年計では前年に及ばなかった。

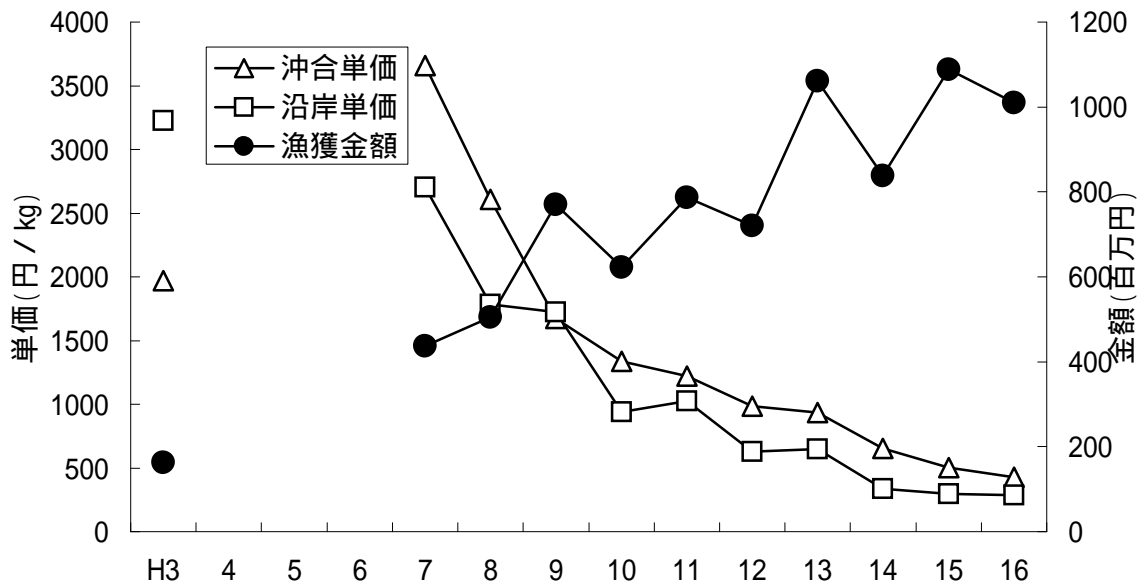


図3 ハタハタの単価と金額の推移

・漁獲金額は約10.1億円で、前年の93%にとどまった。  
 ・単価は前年を下回り、全体では前年比89%の323円/kg。沖合で前年比85%とやや低下が目立っている。

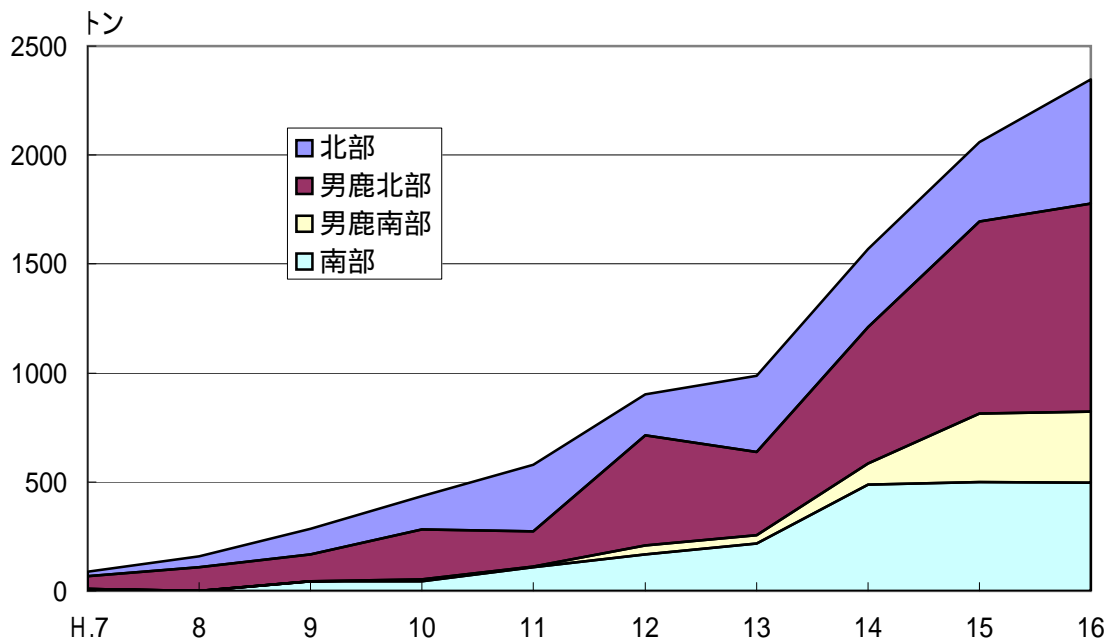


図4 沿岸地区別漁獲量の推移

・前年と類似した地区別の漁獲割合となった。全体の41%(953t)を男鹿北部で占め、県北部24%(573t)、県南部21%(498t)、男鹿南部14%(325t)と続いている。

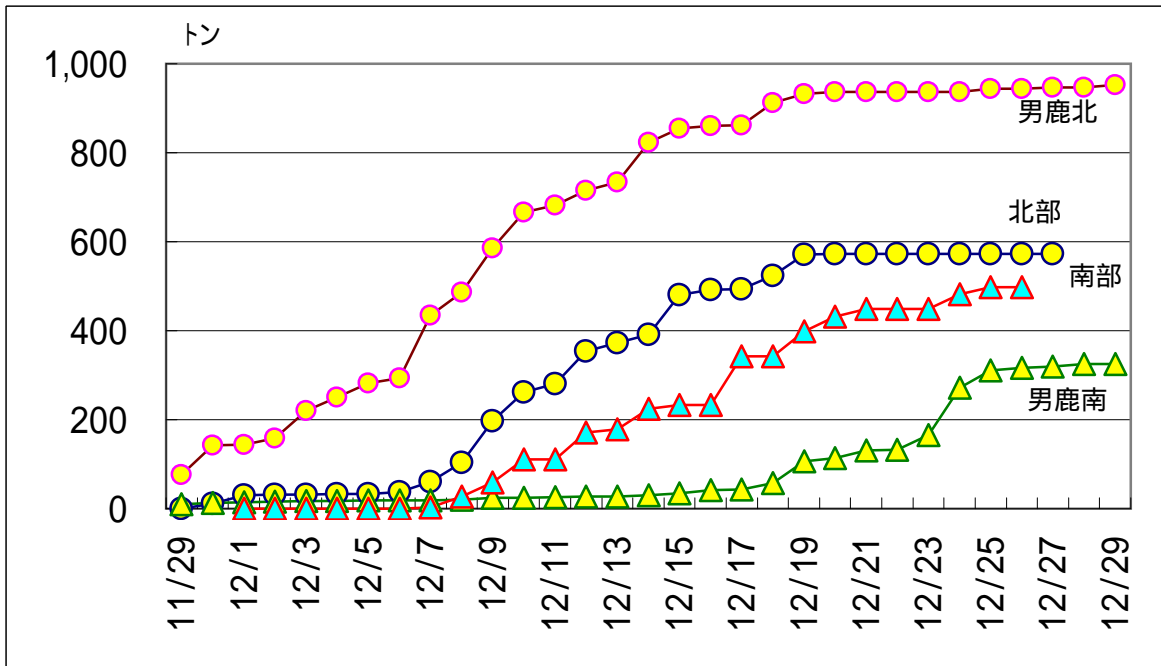


図5 沿岸日別漁獲量の推移(累計)

- ・初漁は北浦地区の11月29日(11/28深夜)で、14年漁期以降3年連続して11月中となった。
- ・県南部地区を除く各地区で11月29日の初漁となったものの、沿岸漁初期は北浦を中心とする男鹿北部以外は低調に推移した。県北部の盛漁期は12月7日以降、県南部は12月9日以降、男鹿南部は12月下旬に盛漁期となり、12月29日に全地区で終漁となった。

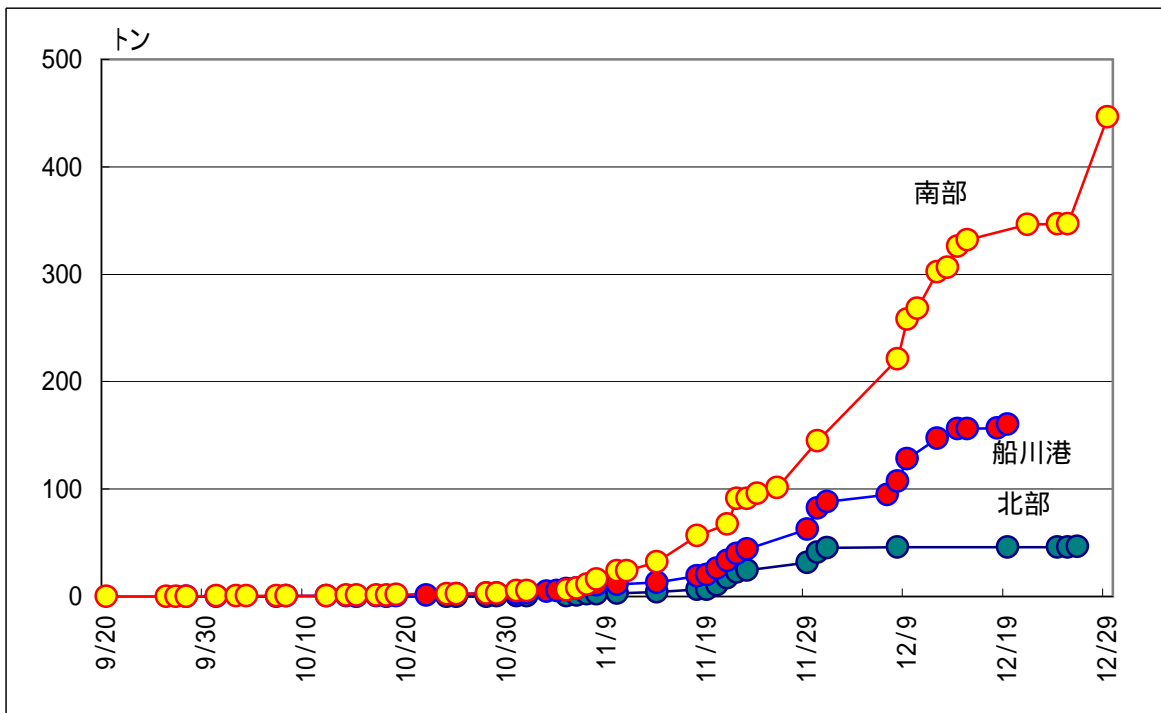


図6 沖合地区別漁獲量の推移(累計)

- ・9月20日の解禁以降は低調に推移し、11月中旬以降に水揚げが増加した。
- ・沖合の盛漁期は、沿岸初漁日の1旬程早く始まり、沿岸の盛漁期と重なる形となった。

## 2 ハタハタ資源調査結果の概要

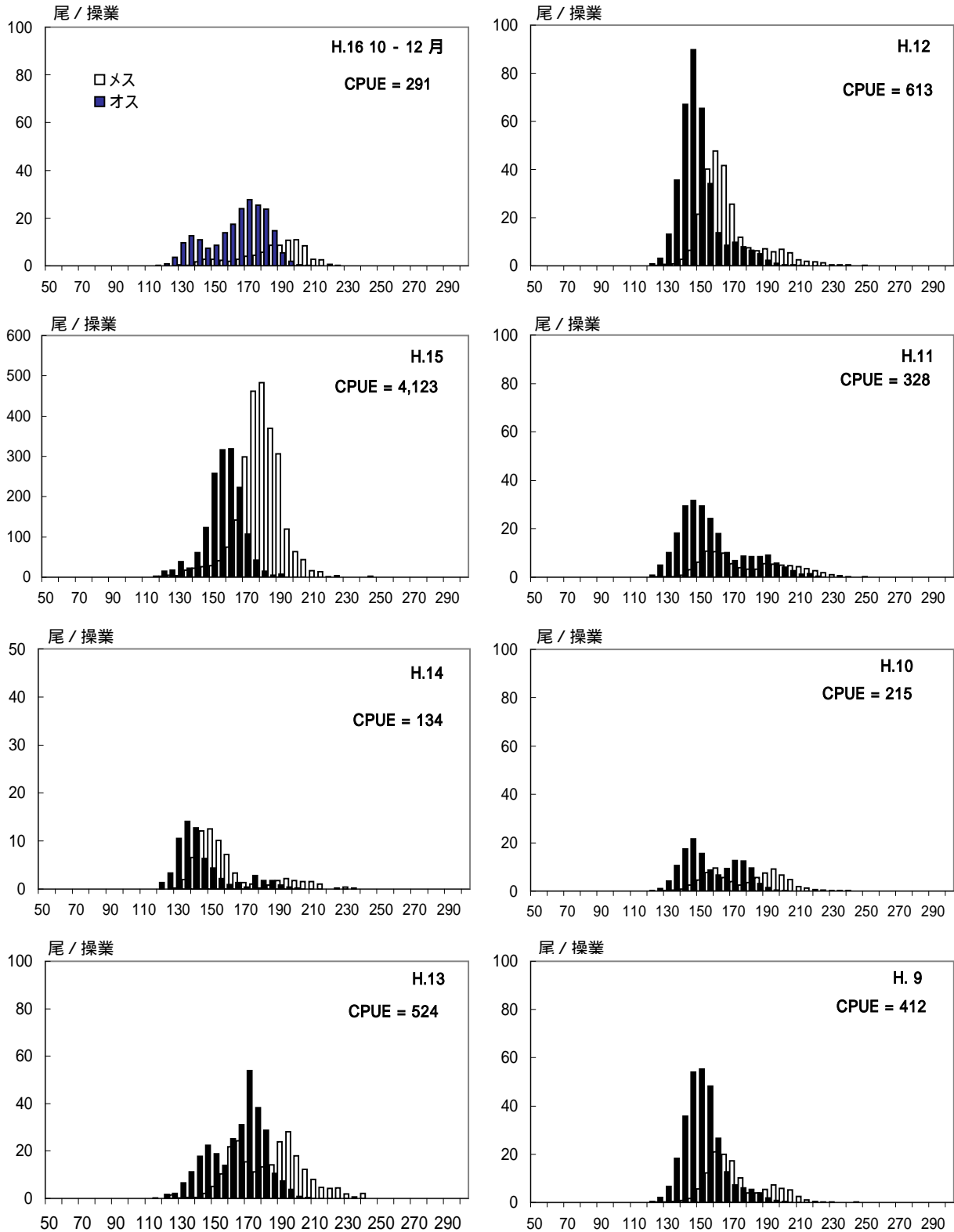


図5 1操業当たり尾数により重み付けした体長組成(10～12月の千秋丸操業結果による)

- ・ 10～12月の試験操業では平年をやや下回るCPUEとなった。
- ・ 体長組成には2つのモードが見られたが、小型は15年級、大型は13年級に14年級が混じる組成と推察した。

表2 試験操業1回当たりのハタハタ漁獲尾数

月	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
1	46.4(9)	35.5(10)	95.2(13)	288.5(16)	521.2(13)	26.2(6)	-	597.8(4)	89.7(6)	469.0(1)	29.8(6)	2.3(4)	17.0(1)	-
2	35.8(6)	5.0(2)	398.3(13)	286.8(4)	189.2(13)	23.5(4)	95.4(7)	126.3(6)	10.2(4)	8.5(2)	21.5(4)	26.5(2)	8.0(1)	196.3(4)
3	59.2(8)	42.3(13)	271.5(11)	226.9(7)	14.1(9)	50.4(11)	389.0(4)	91.3(9)	466.0(3)	33.8(4)	2722.3(3)	92.5(2)	7.5(2)	349.8(5)
4	58.4(2)	22.7(4)	545.5(2)	-	33.2(9)	181.4(5)	496.7(3)	342.5(6)	627.0(4)	31.0(2)	1092.0(1)	47.0(3)	145.8(4)	306.0(4)
5	-	-	-	-	-	-	210.2(5)	70.2(13)	685.3(4)	150.0(4)	2611.0(2)	5331.2(2)	204.8(4)	1275.0(3)
6	36.0(7)	5.3(3)	0.0(2)	24.0(3)	30.0(8)	45.2(6)	151.4(8)	19.5(11)	58.2(6)	72.2(5)	38.7(3)	3126.7(1)	81.0(5)	765.8(6)
7	1.5(3)	7.4(7)	22.9(8)	29.9(7)	138.8(9)	22.6(8)	-	-	-	-	9.0(2)	-	-	-
8	29.7(10)	12.4(14)	11.5(8)	55.3(7)	115.3(4)	188.0(4)	33.5(2)	149.5(6)	1916.5(2)	105.0(2)	215.0(2)	26.0(2)	1.0(1)	5.0(3)
9	37.8(16)	19.1(9)	113.4(14)	248.0(7)	392.6(8)	88.5(15)	104.0(5)	75.0(6)	90.5(2)	208.0(1)	318.3(3)	29.3(3)	121.4(9)	64.4(5)
10	43.8(12)	56.6(10)	636.7(4)	528.6(5)	82.3(4)	150.8(6)	495.3(9)	98.3(3)	108.6(5)	29.3(4)	295.5(4)	107.3(3)	229.2(6)	70.6(5)
11	76.2(19)	33.6(5)	125.3(7)	528.3(8)	40.4(9)	236.0(9)	452.3(9)	213.3(9)	310.6(5)	110.8(4)	896.5(2)	126.0(1)	2364.0(1)	563.2(5)
12	97.4(13)	195.0(2)	160.4(7)	124.0(7)	42.3(8)	295.6(5)	225.3(6)	335.7(3)	922.0(2)	2060.3(3)	581.0(3)	221.0(1)	16684.0(2)	34.0(1)
1-6月	46.1(32)	31.9(32)	255.9(41)	247.4(30)	190.4(52)	62.0(32)	221.3(27)	146.0(49)	280.6(27)	91.3(18)	782.2(19)	1012.7(14)	108.7(17)	553.5(22)
9-12月	64.1(60)	49.8(26)	191.7(32)	350.9(27)	143.9(29)	166.7(35)	358.6(29)	174.8(21)	294.4(14)	579.1(12)	472.7(12)	94.6(8)	2122.2(18)	220.3(16)
年計	53.5(105)	32.2(79)	189.9(89)	246.4(71)	167.9(94)	110.8(79)	283.5(58)	154.2(76)	361.1(43)	275.1(32)	599.5(35)	624.4(24)	1112.4(36)	383.4(41)

( )内は操業回数

・9～10月の1操業当たり漁獲尾数は、民間船の漁況と同様に低調なものであったが、11月にはほぼ近年並みの数値となった。

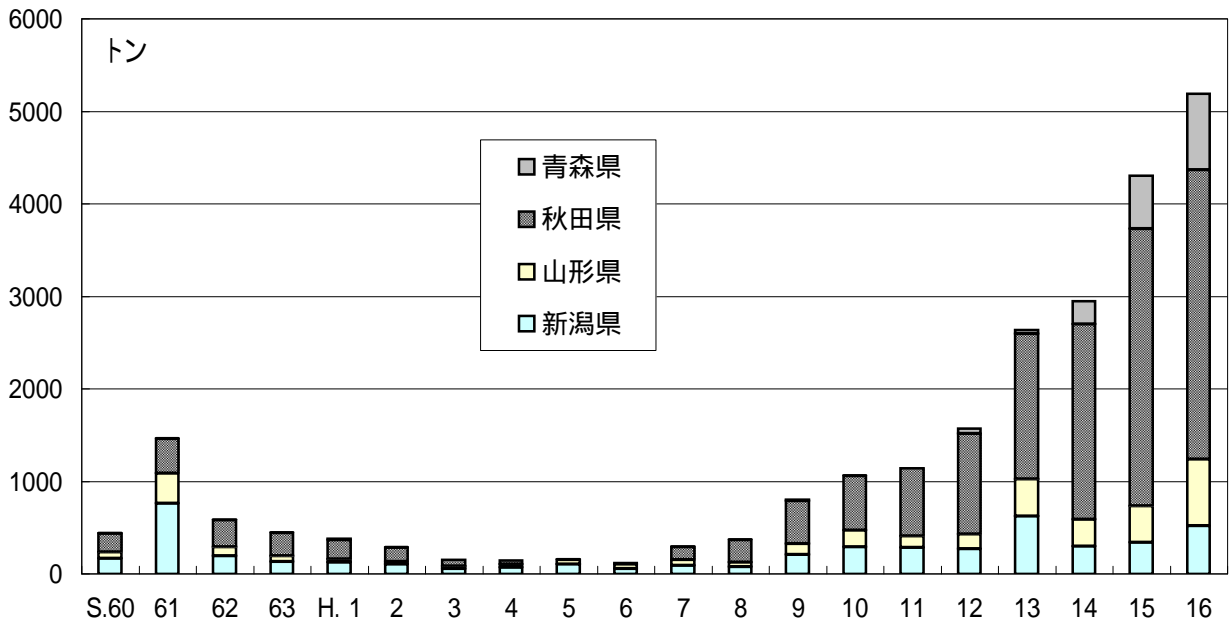


図8 日本海北部4県漁獲量の推移

- ・4県の合計は5,189トンで前年比120%となった。5,000トン超は昭和53年以来26年振り。
- ・県別には青森821トン、山形720トン、新潟519トンで、各県の前年比は140～180%となった。
- ・青森・山形両県では沿岸でも漁獲され、今季の沿岸分は青森782トン、山形62トン。

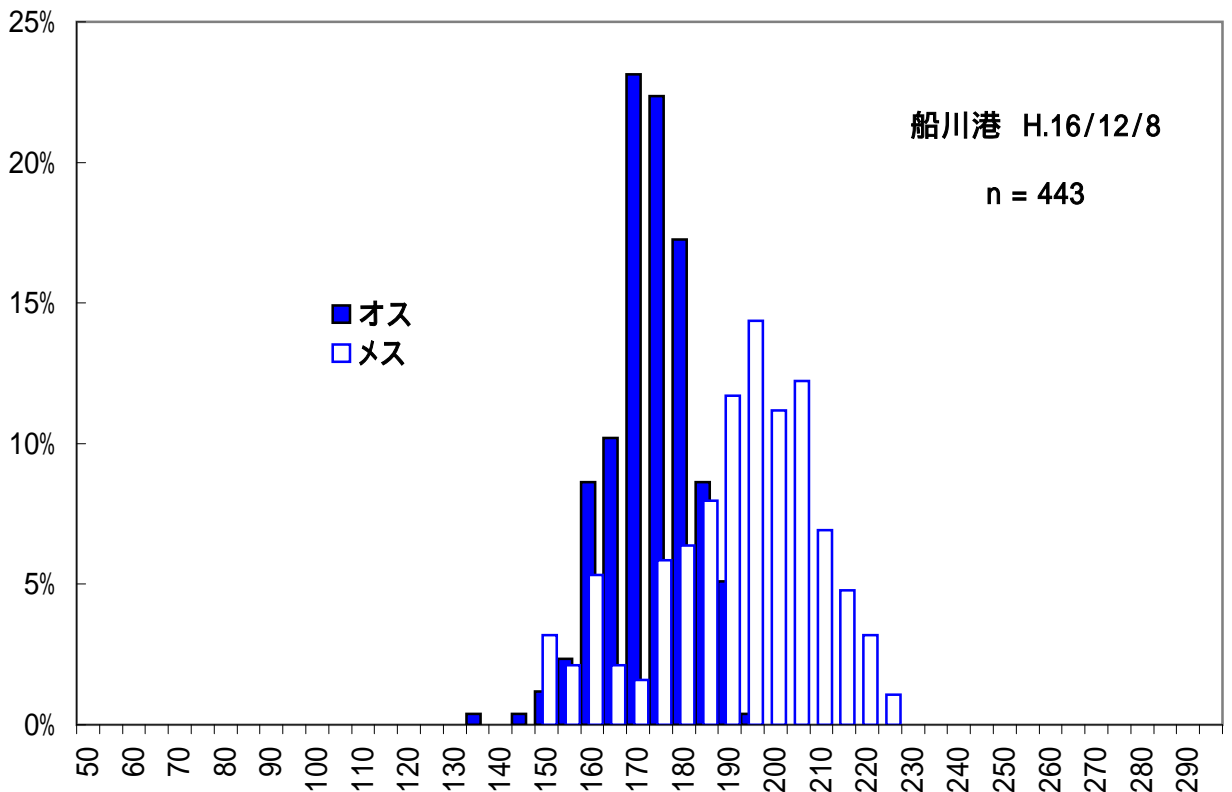


図9 船川地区小型定置網の漁獲物の体長組成

- ・底びき網試験操業で見られた小型群(オス14cm、メス15cm)が沿岸漁の水揚げには多くは認められなかった。
- ・大型群は体長モードが1つだが、13年級に14年級が混じる組成と考えられる。

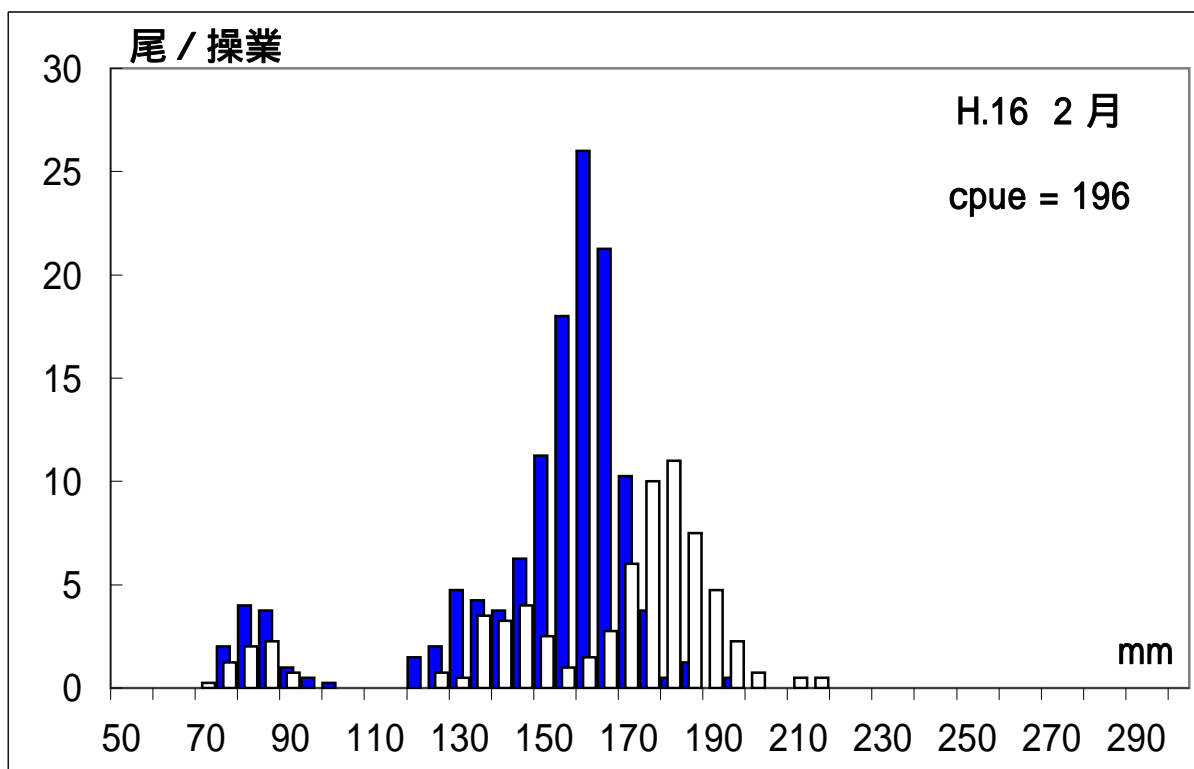
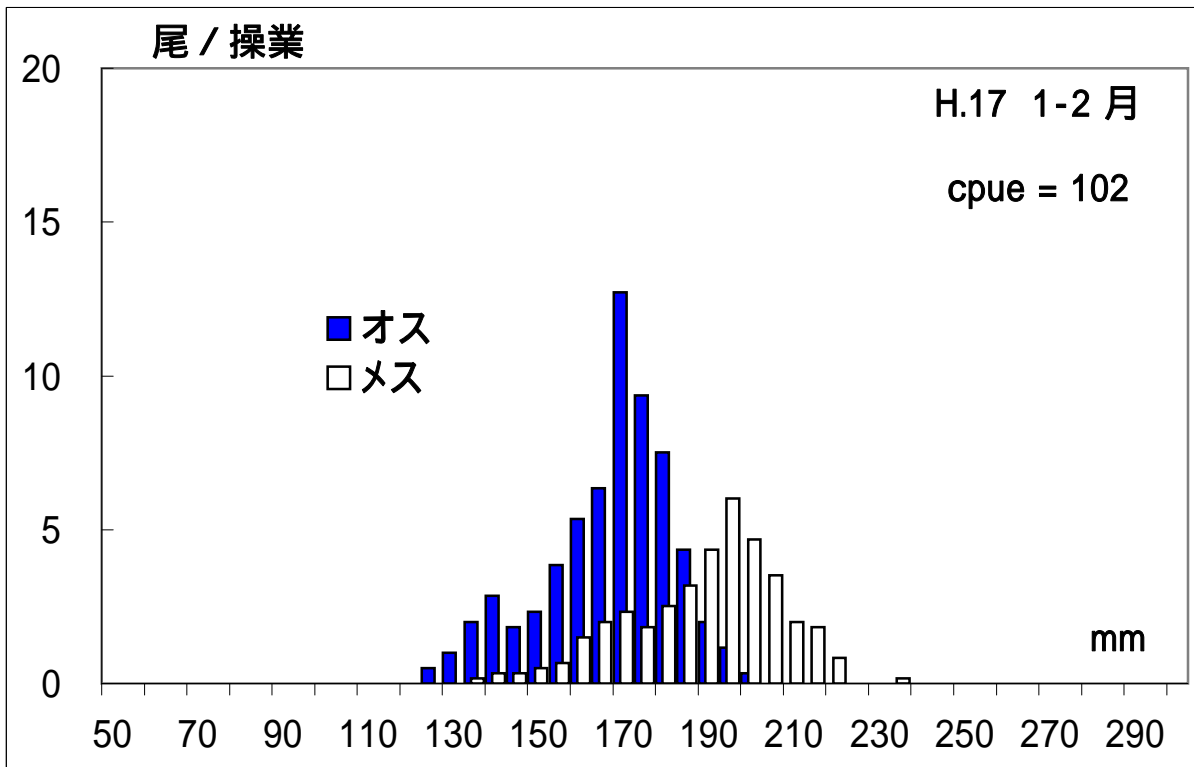


図10 1~2月期の千秋丸試験操業結果(1操業当たり体長組成)

- ・ 10~12月の底びき網試験操業(P.5)と類似の体長組成となっている。
- ・ 15cm以上の大型群は2つの年級の混成と見られる。オスは体長モードが1つしか認められないが、メスは18cm付近に13年級と14年級の境界が現れている。
- ・ 前年同期に見られた小型の1歳魚(16年級)は出現していない。



表3 ハタハタ卵塊密度(個/m<sup>2</sup>)の推移

地区	定点	H.3	H.4	H.5	H.6	H.7	H.8	H.9	H.10	H.11	H.12	H.13	H.14	H.15	H.16	H.17
岩館	St. 1			6.1	3.3						26.9	27.0	11.9	173.8	14.7	75.6
	St. 2				13.0	9.7	1.2	7.6	7.6	1.5	12.6	4.1	21.1	231.8	39.4	41.3
	小入川増殖場												17.5	30.3	13.9	
八森	St. 1(雄島)			0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7	0.0	0.3	0.0	0.1	8.2	0.0	
	St. 2(ニッ森)			0.0	0.0	1.7	0.2	1.3			0.1	0.1	0.8	12.9	0.5	36.7
	St. 3(漁協脇)								27.4	39.7	15.7	3.2	25.9	116.8	25.3	23.0
	St. 4(滝ノ間)												53.2	192.8	112.8	
能代	St. 1(南防波堤)			0.0	0.1		0.0	0.5		0.0	0.0					
	St. 2(発電所取水口)			0.0	0.0		0.0	3.5	0.0	0.0	12.3	0.0				
	St. 4(北防波堤)			0.0	0.0		0.0	0.9	6.0	0.0	6.6	0.0				
北浦	相川St. 1	0.6	0.1	4.4	0.6	1.5	0.6	2.0	10.2	2.2		1.6	0.2	91.9	0.0	
	相川St. 2			0.9	0.2	2.1	0.6	1.7	6.6	4.4	5.5	2.4	0.1	9.7	25.4	2.2
	相川St. 3						1.8									
	相川St. 4						2.3									
	八斗崎St. 1(0.5m)	1.9	0.1	1.1	0.4	1.0	1.4	2.0	0.6	5.3	0.1	8.6	0.0	19.7	9.9	16.7
	八斗崎St. 2(1.5~2m)	1.9	0.1	1.1	0.1	0.1	0.6	3.1	6.3	3.9	1.7	1.1	0.2	12.6	70.1	13.3
	八斗崎St. 3(2m)												7.7			
	八斗崎St. 4(3m)												17.2	57.2		
	八斗崎St. 5(4m)												13.0		87.7	41.1
	八斗崎St. 6(6.5m)													21.6		
野村		0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.5	0.0	0.0	1.8	1.6	5.9	0.0	2.1	11.3	7.2
湯の尻	St. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.9	16.3	1.8
	St. 2				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.5	8.9	4.5	26.2	20.6
戸賀	St. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.8	6.6
	St. 2			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	49.9	24.4
	St. 3			0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	5.3	1.4
台島	St. 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	0.0		11.6	0.6
	St. 2											0.5				
女川	St. 1											4.8				
	St. 2											2.3				
船川	備蓄St. 1				0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	1.4			
	備蓄St. 2										1.2	120.0	56.5	3.0	17.7	62.5
	金川St. 1			0.9	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0		0.5	0.1
	金川St. 2			0.3	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0		16.8	1.7
平沢	St. 1			0.8	0.4	2.2	0.1	0.3	0.0	9.0	1.7	3.6	19.1	7.6	68.9	
	St. 2(鈴分港)			0.3	0.1	0.5	1.5	1.1	9.0	10.4	16.8	44.0	30.6	34.9	69.8	210.4
																13.3
金浦	St. 1					0.8		1.1	4.3	0.0	0.0	60.0	0.6			
	St. 2(飛分港沖側防波堤)										8.0	57.0	1.3			
象潟	St. 1(小瀬分港)										21.2	1.5	0.0			
	St. 2								27.0							

・全体の卵塊密度(代表定点)は、解禁前の平成7年と比較し21.9倍に増加しているものの、前年比は約30%に減少した。  
 ・地区別では、県北部29.9個/m<sup>2</sup>(前年34.6)、男鹿周辺14.1個/m<sup>2</sup>(前年23.5)、県南部210.4個/m<sup>2</sup>(前年69.8)と、県南部の増加が目立っている。